

「両親を悪く言う人はいなかった」とサッカー元日本代表でJリーグ「セレッソ大阪」アンバサダー、森島寛晃さん(40)は言う。そんな両親の口癖は「人に迷惑をかけるな」。「日本一腰の低いJリーガー」と呼ばれた森島さんの原点が垣間見えた。今回は「自慢できる両親」やサッカーの恩師について森島さんが語る。

# 「仲間を大事に」心に刻み込む

親に一番感謝しているのは中学から高校へ行くとき。静岡に行ったんですけど最初は反対されていた。

(大河FCの)先輩が行ったからチャンスをもたらしたんですけど親はやっぱり…。覚えているのは行きたくてごねていたこと。5つ年上のお姉ちゃん(小由里さん)が「行かしてやったら」みたいな話をしていた記憶がある。

父親(昭治さん、76歳)と仲良かった先輩のお父さんとかの話もあって、結局、行かしてもらっていい経験をさせてもらいました。

<中学卒業後、いわゆるサッカー留学で進学したのは静岡県の東海大第一高校(現・東海大付属翔洋高校)。東海大一高は全国高校サッカー選手権大会で昭和61年度に優勝、62年度は準優勝と活躍した。入学はその翌年だった>

今考えると中学まで15年ぐらいしか地元にはいなかった。自分が今子供を持って、15で自分のところを離れていくと寂しいなっていう感じがする。(両親の)

決断というのはわからないですけど、寂しかったらどうという思いはあります。

ただ、チャンスを与えてもらえなかったらプロ生活も送れなかった。静岡での3年間は全国(高校サッカー選手権大会)には行けなかったが、経験がなければ間違いなくプロでやっていけなかったと思います。

両親には「人に迷惑かけるな」ということを言われてました。社会人になっても「人に迷惑かけてないねえ」と。周りの人たちで両親のことを悪く言う人はいなかったです。今考えてみても自慢できる親です。自分もしっかりしないとという思いがありました。「日本一腰の低い」といわれるが、まあ間違いなくそれはおやしだだと思いますね。おやしとかは、本当にぼくがいうのもなんですけど腰は低いと思いますね。

<実家は板金屋だった。父親の昭治さんが経営し、母親の公子さん(72)が手伝っていた。「全然裕福ではなかったですよ」と森島さんはいう>

人を大切にするというの

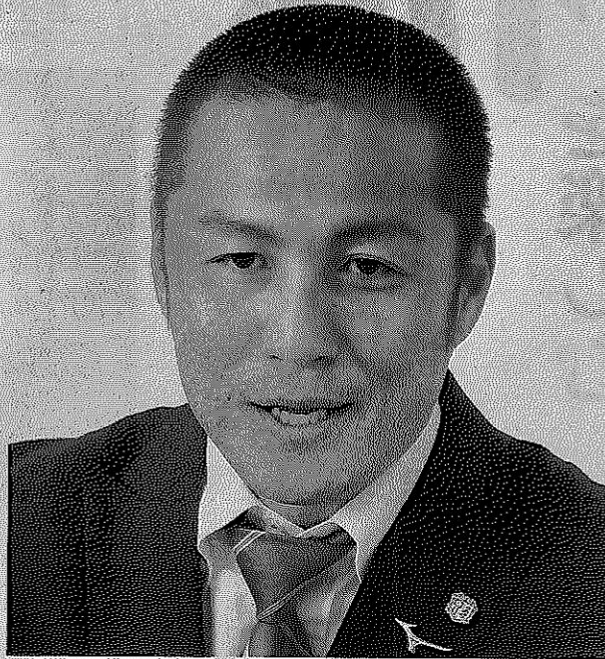


平成10年5月9日、森島さんのW杯日本代表決定後のJリーグ初ゲームを観戦する父親の昭治さん(右)と母親の公子さん(左後方) — 広島市

## 家族を語る

セレッソ大阪  
アンバサダー 森島寛晃さん ひろあき

② 原点「ぼくより腰低いおやじ」



両親とサッカーの恩師。「自分の原点は広島にある」という森島寛晃さん (沢野真信撮影)

は森島家のものというところがあるかもしれませんが、先生（大河FCの浜本敏勝総監督、68歳）にサッカーノートで怒られたのも大きかった。

（大河FCの先輩でサッカー元日本代表の）木村和司（かずし）さん（54）と出会って、サッカーに取り組む姿勢というのが変わり、うまくなりたいとちょっと勘違いした。味方がボールを持っているのに俺がやるんだと自己中心的になり、味方がミスしたら文句言ったり。それをサッカーノートで怒られた。「今日のお前のプレーは何だ。味方に文句ばかり言ってる。そんなことはペレでもしない」「仲間を大事にしないヤツが日本代表とかなれない」って。赤鉛筆でパツと書かれた。それからは、仲

間のミスに対して文句っていうのは自分の中で言った記憶はないんですよ。

サッカーノートは高校になっても見てました。サッカーノートは残していますが、今のマンション10年目ぐらいですが、引っ越ししてからどこにあるかがわからない。こんな話をしてたら捜さなあかんと思います。

仲間を大事にする、相手の気持ちをわかる。原点といえば、この広島っていうところが帰る場所っていうか、もう一回（心の中の）いろんなものを整理できるところです。

（野瀬吉信）

◇

次回は親元を離れた高校時代について語る。「プロサッカー選手の土台をつかった」という。